

# 地方大学における 高大接続教育の持続可能性

2026年2月14日（土）、本学経済学部101教室において、「地方大学における高大接続教育の持続可能性—高校の探究学習の広がり」と大学による支援のあり方とは—」をテーマに、第15回高大連携シンポジウムを大分県教育委員会の後援のもと開催しました。高等学校関係者、大学関係者、大学生、高校生、一般の方々など、100名を超える方にご参加いただきました。司会は、経済学部2年の勝田愛理さんが務めました。

13時30分からの開会行事では、主催者を代表して本学の松田聡・副学長が開会の挨拶を行い、来賓として出席された県教育委員会の小野和正・高校教育課長からご挨拶をいただきました。



基調講演では、福井大学アドミッションセンター副センター長の久保貢先生に「高大接続・教育委員会と連携した高校の探究学習支援とその成果」をテーマにご講演いただきました。福井大学における高大連携活動の変遷、文部科学省委託事業によるルーブリックの開発と高大接続入試の実施、大学教員による県内高校への探究学習支援などについてご説明いただきました。大学入学後の「伸び資質」は高校時代に身に付けた探究力に依ること、「競争」ではなく「共創」によって地域の教育環境が底上げされることなど、示唆に富む内容でした。

続いて、本学高大接続教育室の宮町良広・室長が、28年にわたる本学の高大接続教育を振り返る報告を行いました。

休憩を挟み、高等学校2校による事例発表を行いました。大分舞鶴高校は、池恩燮先生が同校の課題研究について説明した後、理数科3年生2名が、それぞれ高校で取り組んだ課題研究の内容やそこから得た学び、大学進学後の目標について発表しました。大分商業高校は、本学経済学部との高大連携の取り組みについて俣川祐輝先生が説明するとともに、本学教員の指導を踏まえて取り組んだ探究活動の成果を、国際経済科3年生1名が発表しました。

その後、久保先生、宮町室長、池先生、俣川先生がパネラーとして登壇し、青野篤・経済学部教授のコーディネートのもと意見交換を行いました。大学生を中心に参加者から多くの質問や意見が寄せられ、パネラーに加え、発表した高校生や松田副学長、小野課長も発言するなど、活発な議論が展開されました。



最後に、足立一馬・大分大学理事（高大接続担当）が参加者への謝辞を述べ、閉会となりました。参加者アンケートには、「他校の発表や探究に取り組む姿勢から、一つのことに真剣に取り組む大切さを改めて感じた（高校生）」、「宮町室長をはじめ発表者の先生方の熱意や、生徒・学生を思うあつい気持ちに感銘を受けた（高校教員）」、「高大連携の取り組みは高校生の将来の可能性を広げる貴重な機会であり、全国に広がり、将来的には当たり前ものになってほしいと感じた（大学生）」などの感想が寄せられました。